

創造・参加・実践
No.780

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または
「QRコード」で登録!
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西阪急ビル9階
TEL 06-6375-9869 (代)
FAX 06-6373-4133

発行責任者 羽野 敦之
編集責任者 白井 聖二

大阪・関西万博の成果、 中期経営計画達成に向けた「一時金」支給!

《一時金の支給について》

【対象者と支給額(11月1日時点の在籍者)】

1. 社員・シニア・シニアリーダー・グランドシニア・
専門社員・出向受け社員:
120,000円

対象外: 11月1日現在の休職者((出向休職中の者※出向先基準に
より賃金が支払われている者)、公職休職中の者、自己都合
休職の者、配偶者同行制度休職中の者、専従休職の者)

2. 契約社員:**60,000円**

【支給日】

2025年12月19日以降準備出来次第



要求書を提出する羽野中央執行委員長



地本代表者会議において「一時金」の要求に向けた議論を行った

中央本部は11月7日金、
「第2回地本代表者会議」を
開催し、各地本・総支部代表
と、大阪・関西万博への安
全・安定輸送の確保や、中期
経営計画達成に対して「時
金」の要求に向けた議論を
行った。
これらの成果は、「JR西
日本連合JR西労組組合員
の働きの賜物であり、その労
苦に報いるべきである」との
考えのもと、「一時
金」を要求するこ
とを決定した。
11月11日(火)、
会社に対して「組
合員の期待に応
える「一時金」の
要求について」申
入れを行い、13日
に団体交渉を実
施し、各地本・総
支部から寄せら
れたこれまでの取
り組みと成果や、
一時金の支給によ
る組合員のモチ
ベーションやエン
の回答を受けた。

社員12万・契約社員6万円の獲得!!

この成果をもとに明るい未来を創ろう

組合員の皆さんへ ～「一時金」の支給にあたって～

公共交通機関、医療に従事する者としての使命を胸に、業務にご
精励頂いている組合員の皆様に、あらためて敬意を表します。

本日、私たちが11月11日に要求した「一時金」について、社員・シ
ニアリーダー社員・シニア社員・グランドシニア社員、出向受社員に一律
12万円、契約社員に6万円を支給する旨の表明を受けました。

この表明は、私たちJR西日本グループで働く組合員全員が一丸と
なって福知山線列車事故の反省と教訓を胸に刻み、災害時や酷暑
下においても昼夜を問わず日々の業務に不断に取り組んできたこと
や、組織構造改革や経費削減の取り組み、能登半島地震からの早期
復旧、北陸新幹線金沢ー敦賀間の開業、新型やくもやN700Sなど
の新型車両投入、大阪駅うめきたエリア、広島駅の新駅ビル
minamoaの開業をはじめとするまちづくりプロジェクトの効果に大き
く寄与してきた成果です。さらに、大阪・関西万博2025では、安全・安
定輸送の確保や利便性向上など、万全の受け入れ体制によって来
場者をお運びし、大きなトラブルもなく、万博の成功と会社の増収に
貢献しました。

その結果、2025年度第2四半期決算で連結・単体ともに5期連続
の増収増益、通期業績予想を上修正し、アップデートされた「中期
経営計画2025」で掲げた2027年度の財務目標を今年度中に達成
する見込みとなっています。

今回の一時金は、これまで私たちが主張してきた中期経営計画
2025の労苦に応えるものであり、次の成長ステージの歩みと挑戦に
向けた「人材への成長投資」として、会社が私たちへ期待を示したと
言えます。次は、私たちが会社の期待に応えなければなりません。

本年度は中期経営計画2025の最終年度であるとともに、次期中
期経営計画を見据えた極めて重要な年です。経営環境が厳しさと複
雑さを増す中でも、持続的に進化するために、これまで培ってきた安
全を基礎に絆を強め、一人ひとりが活き活きと笑顔で働くことので
きるJR西日本グループの明るい未来を全組合員で創りましょう。

2025年11月18日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組)
中央執行委員長 羽野 敦之

JR東海ユニオン 名古屋セントラル病院組合員が 大阪鉄道病院を訪問・意見交換会を実施 医療現場の課題解決に向け 共有を図る

11月15日(土)、JR東海ユニオンの名
古屋セントラル病院組合員が、大阪鉄
道病院を訪問し、意見交換会を実施した。
看護師組合員が、病棟、看護師以外の
組合員が外来を訪問し、訪問したう
えの質疑や双方の実情課題について共有
を図り、解決に向けた意見交換を行う
など、大変有意義な時間を過ごした。



それぞれの職場の実情・課題について共有を図り、解決に向けた意見交換を行った